

# 介護職員初任者研修 カリキュラム

## 科目別シラバス

### 職務の理解（6時間）

ねらい	研修に先立ち、これから介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。
内容	1. 多様なサービスの理解 2. 介護職の仕事内容や働く現場の理解

### 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）

ねらい	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。
内容	1. 人権と尊厳を支える介護 （1）人権と尊厳の保持 （2）ICF （3）QOL （4）ノーマライゼーション （5）虐待防止・身体拘束禁止 （6）個人の権利を守る制度の概要 2. 自立に向けた介護 （1）自立支援 （2）介護予防

### 介護の基本（6時間）

ねらい	・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。 ・介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。
内容	1. 介護職の役割、専門性と多職種との連携 （1）介護環境の特徴の理解 （2）介護の専門性 （3）介護に関わる職種 2. 介護職の職業倫理 職業倫理 3. 介護における安全の確保とリスクマネジメント （1）介護における安全の確保 （2）事故予防、安全対策 （3）感染対策

	<p>4. 介護職の安全 介護職の心身の健康管理</p>
--	----------------------------------

#### 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）

ね ら い	<p>介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。</p>
内 容	<p>1. 介護保険制度  (1) 介護保険制度創設の背景及び目的、動向  (2) 仕組みの基礎的理解  (3) 制度を支える財源、組織・団体の機能と役割</p> <p>2. 医療との連携とリハビリテーション</p> <p>3. 障害者総合支援制度およびその他制度  (1) 障害者福祉制度の理念  (2) 障害者総合支援制度の仕組みの基礎的理解  (3) 個人の権利を守る制度の概要</p>

#### 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）

ね ら い	<p>高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。</p>
内 容	<p>1. 介護におけるコミュニケーション  (1) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割  (2) コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション  (3) 利用者、家族とのコミュニケーションの実際  (4) 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際</p> <p>2. 介護におけるチームのコミュニケーション  (1) 記録における情報の共有化  (2) 報告  (3) コミュニケーションを促す環境</p>

#### 老化の理解（6時間）

ね ら い	<p>加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。</p>
内 容	<p>1. 老化に伴うこころとからだの変化と日常  (1) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴  (2) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響</p> <p>2. 高齢者と健康  (1) 高齢者の疾病と生活上の留意点  (2) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点</p>

### 認知症の理解（6時間）

ねらい	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症を取り巻く状況 認知症ケアの理念</li> <li>2. 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理</li> <li>3. 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴</li> <li>(2) 認知症の利用者への対応</li> </ol> </li> <li>4. 家族への支援</li> </ol>

### 障害の理解（3時間）

ねらい	障害の概念と I C F、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害の基礎的理解             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 障害の概念と I C F</li> <li>(2) 障害者福祉の基本理念</li> </ol> </li> <li>2. 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 身体障害</li> <li>(2) 知的障害</li> <li>(3) 精神障害（高次脳機能障害・発達障害を含む）</li> <li>(4) その他の心身の機能障害</li> </ol> </li> <li>3. 家族の心理、かかわり支援の理解 家族への支援</li> </ol>

### こころとからだのしくみと生活支援技術（75時間）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。</li> <li>・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の住宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。</li> </ul>
内容	<p>&lt; I. 基本知識の学習・・・12時間 &gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護の基本的な考え方</li> <li>2. 介護に関するこころのしくみの基礎的理解</li> <li>3. 介護に関するからだのしくみの基礎的理解</li> </ol> <p>&lt; II. 生活支援技術の学習・・・51時間 &gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 生活と家事 家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援</li> <li>5. 快適な居住環境整備と介護 快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具</li> </ol>

	<p>に関する留意点と支援方法</p> <p>6. 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 整容に関する基礎知識、整容の支援技術</p> <p>7. 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援</p> <p>8. 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援</p> <p>9. 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</p> <p>10. 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</p> <p>11. 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</p> <p>12. 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護 終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への課程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援</p> <p>&lt;Ⅲ. 生活支援技術演習・・・12時間&gt;</p> <p>13. 介護課程の基礎的理解</p> <p>14. 総合生活支援技術演習</p>
--	---

### 振り返り（4時間）

ねらい	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。
内容	<p>1. 振り返り</p> <p>2. 就業への備えと研修修了後における継続的な研修</p>